

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである。

～ フランスの哲学者 デカルト の言葉です ～

1. 書くのがしんどい!?

SNSやメールの文章はすらすらと書けるのに、就職活動のエントリーシートや小論文は文章が浮かばずに手が止まってしまう…そんな風に悩んでいる方はいらっしゃいませんか? 就職活動に関する図書の出し出しが多い中、「書くこと」について皆さんに何か本を紹介したいなと図書館の本棚を眺めていましたところ、『書くのがしんどい』という本を見つけました。いわゆる就職活動のハウツー本ではありませんが、「書くこと」に関する精神論や具体的な文章術が丁寧に読み易く記されていて、この本を読むと文章を書くことへの抵抗感が低くなる感覚を覚えます。「書かなくちゃ」とかんだ気持ちを「(相手に) 伝えよう」と思い変えるだけで面白いように筆が進む、最初から完璧な文章を目指すのではなく、まず書いてみて修正しながら徐々に文章を仕上げていくなど、読むだけでなくでなんとなく気持ちが楽になりませんか?

文章を書く大変さは図書館通信を通じて痛感しておりますが、この本のおかげで少し肩の力を抜いて原稿に向き合えるようになりました。就職活動においても「病院や企業へ自分という人間を伝えよう」という気持ちでエントリーシートや小論文を書き進めれば、肩の力が抜け、自然と言葉を書き連ねることができるかもしれません。



書くのがしんどい
(竹村俊助著/PHP研究所)

2. 日本の古典をよむ⑬『宇治拾遺物語』

『宇治拾遺物語』は説話集の中でも大変親しまれてきた作品として知られ、鎌倉期(遅くとも13世紀前半まで)には成立したものと推測されています。残念ながら編著者は定かではありませんが、197話ほどの説話が収められていて、広く知られる「わらしべ長者」や「こぶとりじいさん」等も収録されています。説話とは「実際にあった出来事や、実際にあったと考えられている出来事を伝えた話」のことで、『宇治拾遺物語』はとにかく話題が豊富で多様性に富んでいます。仏教の経典で学ぶような話、昔からよく知る身近な話、インドや中国の話、尊い話、おかしい話、笑い話など、読む人を飽きさせません。

では1つ、印象深かった説話をご紹介します。『雀の報恩の事』というお話です。ある日、子どもたちの悪戯で怪我をしてしまった雀は、心優しいおばあさんに助けられ手厚く介抱されました。これがとても嬉しかった雀は、後日おばあさんに大きな恩返しをします。この様子を羨んだ隣に住むおばあさんは、同じ恩を受けようと自ら雀に怪我を負わせ、介抱しました。元気になった雀はこのおばあさんに“恩返し”をしますが…。続きは『宇治拾遺物語・十訓抄』(小学館)のp.67をご覧くださいね。

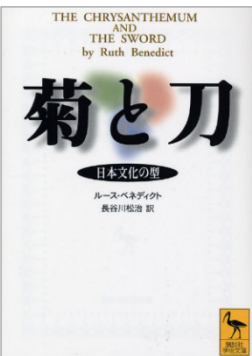


日本の古典をよむ(15)
宇治拾遺物語・十訓抄
(小林保治ほか校訂・訳/小学館)

3. アメリカ人から見た日本人の行動原理

第二次世界大戦中、アメリカは敵国である日本の動きを読むため、日本人がどのような思考や行動をするのか、日本の民族性について理解する必要がありました。アメリカ戦時情報局は文化人類学者ルース・ベネディクト氏に日本文化の研究を依頼しますが、当時は交戦中で日本での現場調査が叶わなかったため、ベネディクト氏は日本に関連する文献や映画、アメリカに住む日系移民や捕虜となった日本兵らから情報を得て研究を進めていったそうです。研究の末、彼女は日本人のある行動原理に辿り着きました。その日本人の行動原理とは「周りにどう思われているかを非常に気にする」というものです。キリスト教を精神的支柱にもつアメリカ人は、神様がいつも見ているという「絶対神」を基準として行動決定をしますが、キリスト教のような神の概念を持たない日本人は、その行動が恥ずかしくないかどうかという「他者の目」を基準として行動決定をすると分析されています。そしてこの対比を、ベネディクト氏は「罪の文化」と「恥の文化」と表現しています。

日本文化の基本概念を「恥」と分析した本書は国内でも賛否両論あるそうですが、日本人の民族性や行動習慣を客観的に知るには興味深い一冊だと思います。ぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



菊と刀
(ルース・ベネディクト著/長谷川裕治訳/講談社)

◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

人びととその日の事は、必ずその日に済ませ、後日に事の残らぬよう努むべきである。

【『渋沢栄一訓言集』・座右銘と家訓】

片付けようと思いつつ、なかなか手につかない課題やレポートが机の上に積み重なっていませんか? 思っているだけでは何も進まず、時間だけがどんどん過ぎてしまいます。「その日にできることはその日に済ませる」、今日から実践してみましょう。



※格言は『渋沢栄一 明日を生きる 100の言葉』 渋沢健 著/日本経済新聞出版社 p.122より転載

◆ 国家試験問題を解いてみよう ◆

管理栄養士 栄養士法に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

1. 管理栄養士名簿は、都道府県に備えられている。
2. 食事摂取基準の策定について定めている。
3. 栄養指導員の任命について定めている。
4. 管理栄養士の名称の使用期限について定めている。
5. 特定保健指導の実施について定めている。



※ 問題はメディックメディア『QB 管理栄養士国家試験問題解説 2021 別冊付録「第34回管理栄養士国家試験問題」p.31より出題(解答は裏面をご覧ください)



『この気持ちもいつか忘れる』住野よる/著

管理栄養学部 助手 秋山琉璃

この気持ちもいつか忘れる
(住野よる著/新潮社)

深谷キャンパスの学生の皆さんこんにちは。梅雨明けも間近となり、色とりどりの七夕飾りに、いよいよ夏の訪れを感じる頃となりました。涼のとれる図書館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。数年前から、若者の活字離れという言葉を目にする様になりました。時代の流れに合わせて、教科書も簡潔書きスタイルが増え、ますます活字離れに拍車を掛けている今日です。私は、時々読書を楽しみます。本を購入するときの新しい出会いがたまらなく好きです。本の購入は、必ず書店へ出向き、本を手に取り作家や帯、表紙を見てファーストインプレッションで購入します。また新作や話題作などにも興味を持ち、気に掛けています。昨今、デジタル化社会に伴ったペーパーレス化、めまぐるしく変わっていく令和時代、環境に優しく地球に配慮されていく世の中、特に最近耳にするSDGs。SDGsの国際目標にも“手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する”や、“森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る”などの環境目標が組み込まれています。ペーパー派にとっては肩身の狭い時代となりつつありますが、ペーパーならではの五感で感じることや、本の温かみ、購入するときのワクワク感は格別なものであると思います。

さて、今回紹介する本は住野よる(著)『この気持ちもいつか忘れる』です。住野よると言ったら誰しもが思い浮かべる大ヒット作『君の隣に食べたい』の著者です。このインパクトのあるタイトルとは真逆で淡くて儚げな表紙には度肝を抜かれ、衝撃のラストに驚きました。それからというもの新作を見つけると必ず購読するほど虜になってしまいました。こちらの本は、小説×音楽の境界を超える、新感覚コラボの小説であり日本のロックバンド THE BACK HORN とのコラボCD が付属しています。今回の作品も始めの一文から刺激的で“どうやらこの生涯っていうのは、くそつまねえものだ。”から始まり、気づいたらあつという間に読み終えてしまいました。これからの若者が人生をどう生きるか、心揺さぶられる一冊です。いま人生がくそつまねえと思っ

ている方や、音楽が好きな方、読みたい物が見つからないそんな方におすすめの本です。こちらの本をきっかけに、たくさん本と出会ってほしいと思います。最後に、本は心を豊かにし、人生も豊かにします。コロナ禍で外出制限がされストレスが溜まる今だからこそ是非読書をしてみてはいかがでしょうか。きっと本を読み終えた時には、ゆっくりと過ごした時間が心の癒しとなり明日へのパワーにつながるでしょう。

日本画家・熊谷守一(くまがいもりかず)

「モリカズ様式」という画法をご存じでしょうか? 単純な線と明快な色彩で表現するこの画法は、「画壇の仙人」と呼ばれた日本画家・熊谷守一氏によって生み出されました。

幼いころから絵を描くことが好きだった熊谷氏は、東京美術学校(現・東京藝術大学)の西洋画科へ進み、優秀な成績を収めました。卒業後も制作を続けましたが、評価を得ることに無欲だった熊谷氏は自身の作品を積極的に発表しなかったため、収入の乏しい生活を送ることとなります。そんな中、熊谷氏は友人から樺太調査隊の仕事を紹介され、スケッチ係として参加したのですが、このとき訪れた先々に目にした光景が彼の胸に深く響いたようで、晩年の作品のモチーフとして登場しています。

独特な味わいの「モリカズ様式」は、確立されるまでに長い年月を要しました。熊谷氏は初め、暗闇でものの見え方に着目した画法を研究していましたが、やがて筆つきや色遣いが大胆になり、さらには構図がシンプルで輪郭線がはっきりとした、いわゆる「モリカズ様式」が垣間見えるようになります。彼が75歳の頃に画中のサインが漢字からカタカナへ変わり、ここで「モリカズ様式」という新しい画法が確立されました。この「モリカズ様式」は日本美術史の中でも類まれなる画法で、日本美術史への位置づけには非常に困難を極めたそうですが、現在は日本絵画の一つの表現方法として評価されています。また、熊谷氏と彼の作品は一部の熱狂的なファンにより愛好されてきましたが、1990年代に開催された彼の大きな回顧展をきっかけに広く一般に知られるようになったそうです。

モリカズ様式と聞いて思い浮かべるのは、やはり猫や鳥など動物を描いた作品でしょう。熊谷氏が描いた動物たちには、観る者を癒す不思議な魅力があります。作品のモデルになっている猫たちは、熊谷家で飼っていた鳥をターゲットにやってきた野良猫たちなんだそうです。とても野良猫には見えない、リラックスした表情が印象的です。熊谷氏の作品の数々は、愛知県美術館のホームページ^{*1}でもご覧になれます。唯一無二のモリカズ様式をぜひご堪能ください。



(右) 熊谷守一『猫』1965年 愛知県美術館(木村定三コレクション) *1 愛知県美術館HP <https://www.artaac.jp/faichijo/index.html> 参考文献(1) 池田良平 監修 著 蔵屋美香 著『もっと知りたい熊谷守一』東京美術 (2) 熊谷守一 著『熊谷守一わたしはわたし』求龍堂 (3) 熊谷守一つげり記念館HP

◆図書館からのお知らせ(再)◆

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ただ今サービスを一部縮小させていただいております。ご利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、何卒ご了承くださいませよう、よろしくお願い申し上げます

- 1.ご利用いただける方… 学生・教職員のみ(滞在は最長90分)
学外者(卒業生含む)のご利用は当面停止
- 2.開館時間… 月-金 9:00-20:00 ※土日は休館
- 3.サービス… 貸出・返却・複写・閲覧・座席利用(館内1Fで指定された場所のみ)・DVD視聴(予約制/1日1本まで) 他
- 4.入館時のお願い… 入退館簿の記入・マスク着用・手指アルコール消毒・館内では3密を避ける・私語を慎む・状況により入館制限する場合あり
- 5.その他… 返却図書は除菌作業のため3日間はお貸出しできません

ゼフィランサス

ゼフィランサスとはギリシャ語の造語で「西風が運んできた花」という意味を持ちます。白花のタマスダシ、ピンク花のサフランモ

国家試験問題(表面)の正解は4.

※解説はメディックメディア『QB 管理栄養士国家試験問題解説2021 p.927-928』第34回管理栄養士国家試験(2020年)正解・解説』を参照

ドキなどをまとめてこうと呼ぶことがあるそうです。白花がタマスダシと呼ばれる所以は、白い小さな花を「玉」に、スラッとした線状の葉が集まった様子を「簾(すだれ)」に例えこの名が付けました。一方、ピンク花がサフランモドキと呼ばれるのは、その名の通り「花がサフランに似ているから」だそうです。鮮やかなピンク色は美しく、私たちの目を楽しませてくれます。ゼフィランサスは別名「レインリリー」と呼ばれ、雨が降った後に一斉に花を咲かせることから、この愛称が付けられたそうです。

